

# 為政者の誤魔化しを実証的に糾した衝撃の書 「餓死迫る日本」の著者 小池松次氏の講演会

食料自給率 39%は真っ赤なウソ！本当は限りなくゼロに近い！

(政府の統計が証明 お気の毒に輸入ストップで国民は一億総お陀仏)

日時 平成 20年 10月 20日 18:30～20:30 定員 80名  
場所 ちよだプラットフォームスクウェア 5F 505・506会議室  
(千代田区神田錦町 3-21 TEL 03-5259-8400)  
参加費 一般 1千円、学生・塾生 500円  
申込方法 下記記名の上 FAX 03-5358-5375  
主催 平成史学塾 日本を正論で主張できる日本人の育成を図る  
渋谷区代々木 1-38-13 システムユニテット内  
TEL 03-5358-5370



## ◎講演内容

- 1、1億2千万人の国民全員が自分の体重の十倍の食料・肥料・飼料を毎年輸入
- 2、農機具・漁船の燃料、化学肥料、農薬、飼料の輸入途絶で日本は即刻自滅
- 3、日本の商船隊 2009 隻のうち日本国籍船は 59 隻だけ。船も船員も外国任せ
- 4、日本潰すにや原爆いらぬ船を半年止めりゃいい。腹が減っては戦はできぬ
- 5、100 億本もある間伐材でエタノール燃料を生産すれば 6000 万人は生存可能
- 6、食料パニックを生き抜く自給自足の家庭菜園の実例 (5 人家族で 300 坪)
- 7、著者単独出演 TV「東京にんげん探訪・ケールと共に 20年」15 分間放映

- 本書の第七章は『一億総餓死でも生き残れる超優良野菜ケールの話』です。ケールが政府に代わって貴方の家族の食料安全保障を助けてくれます。



この数カ月間、あらゆる日本のメディアが食料不足問題を取り上げています。その関心は、おもに世界一低い日本の食料自給率に向けられています。このまま輸入依存の政策を取り続けるべきか、自給率を上げる政策に転換するべきなのかという議論です。輸入食料をテーマにした専門書も多数発行されています。しかし、筆者の浅学寡聞のゆえか、不思議なことに「自給率三九%」そのものを問題視した著作・論文に出会ったことがありません。

本書は、政府発表の「穀物自給率二七%、カロリーベース自給率三九%」の嘘を暴くことを第一の目的に執筆を開始しました。いちばん新しい平成二十年の「食料自給率」(速報)を見ると、米の自給率は一〇〇%となつています。けれども、米を作るための農機具の動力である石油も、チツソ・リンサン・カリの化学肥料も、除草剤・農薬もすべて輸入です。純国産では米の生産は不可能なのです。また、鶏卵の自給率は九五%ですが、輸入飼料のトウモロコシがないと鶏は卵を産めません。同様に魚介類の自給率は五九%ですが、漁船の燃料がなければ魚は一匹もとれません。自給率どころの話ではありません。しかし、ただ批判し、いたずらに恐怖心をあおるだけでは公平さを欠くので、もちろん善後策も提案させていただきます。

突拍子もない小論で恐縮ですが、しばらくの間、おつきあいをお願いします。

平成二十年七月吉日

著者 識

【小池松次氏】  
昭和三年 佐賀県生まれ。  
長崎青年師範学校(現・長崎大)を経て、東京教育大学(現・筑波大学)教育学科卒業  
幼稚園から大学まで幅広く教育学の実習と講義の実務に専念。その間学習指導・進路指導でも抜群の成績を上げ、テレビ・ラジオ等のマスコミにも度々登場。  
世界の教科書や家庭のしつけ等の国際的な比較教育の研究に従事し、その成果の一端である「修身・日本と世界」は、徳育指導・国民教育の貴重な資料として世界的に認められ、TIME誌(一九九六年四月二十二日号)に小池の授業風景が掲載されている。  
著書・論文・マスコミで教育再建を提案し続けている。

- 主な著書■
- 話題の新聞「餓死迫る日本」(平成二十年八月五日発売)
- 小学校受験 目からウロコの合格ノウハウ(蔵書房)
- 修身の教科書(戦後六十周年記念サンマーク出版)
- 天皇明仁の昭和史(ワック)
- 品格ある日本人を育てた小学国語読本(致知出版)

切取不要、そのまま 03-5358-5375 まで FAX してください。

10/20 講演会に参加 お名前 \_\_\_\_\_  
FAX または E-mail \_\_\_\_\_